

『ニッチを探して』を朗読する  
島田雅彦さん COEEM提供



スマートフォンを用い、東京都内各地の街角で、作家自身による詩や小説などの朗読を立体音響で楽しむことができるプロジェクト「Geo Possession 声のトポス」が始まった。

「詩的思考」とテクノロジーの融合した表現を探究するアーティスト集団「COEEM(コエム)」が企画した。「トポス」は「場所」を意味するギリシャ語。14人の参加アーティストが、それぞれ特定の土地に触発されて創作した作品を選び、現地で3Dマイクを使用して朗読を録音した。

鑑賞者はスマートフォンで専用アプリ(現在は「iOS」のみ対応)を使用し、イヤホン装着して録音地点に立つと、自動で音声が行れる仕組

## 街角で楽しむ作家らの朗読 東京でプロジェクト

みだ。たとえば、JR中野駅近くの遊歩道では、島田雅彦さんによる小説『ニッチを探して』の朗読が聞ける。立体音響により、録音時の街の音や、マイクの近くに立つ作家の気配も再現される。

プロジェクトの発起人の一人で、自身も朗読に参加した詩人の永方佑樹さんは「現実の風景の上に、別の時間軸の音が流れ、土地と作家の記憶を追体験することができる」と説明。「人間の能力を超えて感覚を広げる」という点で、詩などの表現とテクノロジーには親和性がある」と語る。

その他の参加アーティストは次の通り(敬称略)。伊藤比呂美▽小島ケイタ▽ラブ▽管啓次郎▽杉本真維子▽ジョーダン・A・Y・スミス▽高橋陸郎▽谷賢一▽額田大志▽藤井貞和▽古川日出男▽保坂和志▽松浦寿輝。作品・場所の追加も予定。詳細はホームページ(<https://www.coeem.art/project>)。

【関雄輔】